

知的財産を考える市民懇話会(第13回)のご案内

政権交代後、最初の予算編成が近づきました。玉石混淆の「仕分け作業」も進んでいます。日本の政治が大本から変わるのか、年末を迎え、これから眼が離せません。

「国際競争力の強化、科学技術の振興を図るために、知的財産権の強化に取り組みます。知的財産基本法をさらに具体化し、中小企業・ベンチャー企業に対する支援強化、知的財産紛争処理能力の強化、知的財産権に関する専門家の育成、地域をはじめとする産学の連携強化、研究開発予算の見直し、研究者の意欲向上につながる環境の整備、技術移転機関(TLO)の充実、模倣品対策や特許権侵害対策の強化を進めます。」 - 民主党政策集(2009.7.23)の「知的財産立国の実現」の政策です。新政権で、知財政策は、大きく変わるのか、変わらないのか？

この懇話会では、著作権や世界標準など、幅広い知的財産のテーマを取り上げ、意見交換してきましたが、日本のみならず、世界が大きな変革の時代にあることは間違いありません。

気候変動等環境問題の深刻化の中で、「持続可能性」が言われ、CSR(企業の社会的責任)やSR(社会的責任)の議論が進んでいます。同時に、またたく間に情報化社会が広がり、作家も学者もワープロソフトで原稿を書き、作曲家は楽譜ソフトで作曲する時代です。ところが、情報化で、人と人のコミュニケーションのみならず、マスメディアや文化に関わる問題も深刻な状況が広がり、米国でも日本でも、マスメディアの地盤沈下と衰退の悪循環が進んでいます。

時代の大変革を可能にする社会制度の一つとして、誰もが簡単に情報を発信でき、利用できるネット社会で、「知」と「社会」を結ぶシステム - 知的財産制度の変革が求められています。

皆さんの御参加を、お誘い申し上げます。

「知的財産を考える市民懇話会」は、知的財産の実務に関する話題を中心に12年40回続いた「JSA知的財産権ミニシンポジウム」を発展させ、より広く市民的、国民的立場から、知的財産(権)に関わる多様な課題を取り上げ、自由な立場で考え、議論する場として、2006年6月から開催しているものです。

記

日時：2009年12月19日(土) 13:30～16:50

場所：文京シビックセンター3階B会議室

(文京区春日1-16-21) TEL 03(5803)1372

(丸の内線・南北線後楽園駅、都営三田線・大江戸線春日駅、下車すぐ)

内容：変革の時代の知的財産を考える

報告1：IT・技術・コミュニケーション・知的財産制度 - 社会と文化の未来を考える
有巢 昇(神奈川民間懇)

報告2：新政権の知的財産(権)政策を探る - 科学・技術政策にも触れて

JSA特許庁分会

< 話題提供を歓迎します。時間配分の都合上、できるだけ事前に予定をお知らせください。液晶プロジェクトを用意していますので、利用御希望の方は、メモリ等を御持参ください。 >

資料代：500円

主催：知的財産を考える市民懇話会

共催：日本科学者会議(JSA)東京支部特許庁分会

協力：日本科学者会議科学・技術政策委員会

問い合わせ先：野村(jsachizaikon アットマーク gmail.com まで)